

平成28年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成28年7月8日（金）13時15分～15時00分

場 所： 市役所8階 大会議室

出席委員： 三浦委員、藤田委員、塚口委員、梅木委員、河前委員、則武委員、
橋口委員、伊藤委員、神門委員、喜田委員、小枝委員、関川委員、
樋口委員、廣田委員、村上委員、吉川委員、五十嵐委員、寺尾委員

欠席委員： 小沢委員、福井委員

事務局： 橋川市長

【健康福祉部】太田部長、富安理事、西総括副部長、岡本副部長、
小川副部長

【健康福祉政策課】織田参事、野々村専門員

【健康増進課】田中課長、田附専門員、井上専門員

【都市計画課】松尾課長

【草津未来研究所】中村参事

傍聴者： 3名

1. 開会

【橋川市長】

皆様には、草津市健幸都市づくり推進委員会の委員にご就任賜り、また本日第1回目の会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

草津市は、おかげさまで毎年東洋経済が発表している住みよさランキングで、4年連続近畿1位となっております。色々な指標の取り方もありますが、草津に住んでよかったという都市づくりが非常に大事だと思っております。近畿では1位ですが、全国では20位ですので、まだ上を目指して取り組んでいかなければならないと思っております。

草津市の人口は、昨年10月1日の国勢調査で13万7,327人であり、県下で一番人口が増加しています。また高齢化率も、現在は65歳以上の人口が21%ということで、全国的にも県下でも若いまちでございます。しかし、少子高齢化が進んでいる中、人口が減少し、将来的には超高齢化していくことが目に見えています。まちづくりを進めていく上で健康は非常に大切だと捉え、健幸都市づくりを打ち出しました。新しい都市モデルを草津から発信していきたいという想いがございます。

健康に関しましては、医療、福祉などの各分野で様々な取組をしていますが、さらに市民全体へのアプローチ、全地域的・全庁を挙げての取組、産官学民が連携した取組ができる仕組みをつくりたいと思っております。委員の皆様から、健幸都市づくりにつきまして忌憚のない幅広い方面からの御意見を賜り、全国の都市モデルとなるような取組にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びの決まり文句は「皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして」ですが、皆様の「健幸」を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

＜草津市市民参加施行条例第 18 条の定に基づき、傍聴者について報告＞
＜草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告＞

2. 委員紹介、委員長・副委員長選任

【事務局】

＜各委員および事務局の紹介＞

＜草津市附属機関運営規則第 4 条第 3 項の規定に基づき、委員の互選により委員長および副委員長を選出。委員長：三浦克之委員、副委員長：藤田聡委員＞

3. 議事

1) 草津市健幸都市づくりの推進について

【事務局】

＜資料 1・参考資料 2 に基づき説明＞

【委員長】

全体の施策の背景や目的、現在の草津市の市民の健康や医療に関する現状、また、具体的な対策の中身を紹介いただいたが、質問や意見があればお願いしたい。

【委員】

「健幸」という言葉はあまり聞き慣れないが、一般的に使われているのか。健康づくりには様々な施策が必要であると考えますが、検討内容等をみると、運動や身体活動に偏っているように感じるが、そこに力を入れていきたいという趣旨か。

【事務局】

全国的なスマートウェルネス首長研究会で「健幸」という言葉のもと、取組が進められている。草津市でも「健幸」を使っているが、一般的かどうかについては、まだこれからだと思っている。運動・スポーツに偏っているとの御指摘については、食事や休養等に関する内容も含めて、今後御議論いただきたい。

【委員長】

運動や身体活動は非常に重要ではあるが、やはり食に関する取組も必要だと私も思う。また、あまり書いていないが喫煙も非常に大きな問題だと思う。

【委員】

HbA1c や収縮時血糖、腹囲に関して、基準が厳しすぎるのではないか。それにより、有所見者が多くなっているのではないか。

【委員長】

参考資料 2 では、HbA1c の有所見率が 60% となっているが、基準を変えると有所見率も変わる。（5 ページの）上の表だけでは何が問題かわからないが、下の地域比較では、基準値を変えても同じようになると思われるので、草津市が他の滋賀県内の市町と比べて高そうだということは分かる。

【委員】

収縮期血圧にしても、年齢差があってもいいと思うが、市は工夫しているのか。

【事務局】

資料の数値については、国が示している基準のまま使っているため、受診の年齢によった補正等は一切加えていない。

【委員長】

特定健診、いわゆるメタボ健診の基準値は、保健指導を選ぶ人の基準なので、すぐに治療が必要ではないにしても比較的厳しい基準だと思う。有所見率だけではなく、草津市が他の市町村と比べてどこが悪いのか、問題があるのかを把握することが重要。引き続き年齢等も考慮して、分析を進めていただきたい。

【委員】

体が元気で健康ということも重要であるが、心を病むということも体全体にとって影響がある。心の問題はどのように扱うつもりなのか。

【事務局】

心の健康については、検討内容案の中には明示していないが、「健幸」を考える上では重要であるため、心の健康に関する内容も含めて御議論いただきたい。

【委員】

高齢者は少なからず病気を抱えているが、活動に参加している人は総じて元気である。健診の結果等の数字で図ることができない健康というものがある。

【委員長】

特に高齢者の場合、介護が必要にならない、家にこもらず外に出たいという気持ちや生きがいは、非常に大事だと思う。まちの健幸づくりの都市計画では、近年、比較的小さなまちづくりが高齢者にとって動きやすいという考え方が出てきている。車に乗って出かけなくても、近いところで事足りると家から出る気持ちになる、という考え方が最近かなり言われている。高齢者向けの具体的な対策はあるのか。

【事務局】

委員長御指摘の小さなまちづくりについては、立地適正化計画の策定に向けて検討を進めている。団塊の世代が75歳になる2025年に向け、健康や介護予防等はどう取り組んでいくかについては、委員の考えと同じ想いを事務局としても持っている。

【委員】

家から外に出る外出率、交通計画の分野における1人が1日に何トリップ、交通行動をするかという指標について、草津市の状況（高齢者の活動状況、近年の傾向、国、県との比較等）の分析を進め、資料集の中に加えるべき。

【事務局】

データについては、事務局で確認し、次回に向けて準備したい。

【委員】

地域に運動プログラムの発信をしているところ。具体的には、元気な高齢者を指導者として養成し、その指導者が他の高齢者を健康にしていくようなシステムづくりを実施。今回の計画においても、草津市でモデルとなる地域を設定し、他の地域に広げていくような取組が盛り込めればと考えている。

運動と食事はセットで考える必要がある。市では食に関する情報発信をこれまでも行っていると承知しているので、運動も絡める形で引き続き情報発信をして欲しい。

【委員】

幸せに生きようと考えた場合、自分のやりたいことができる世の中である必要がある。金銭的余裕があり、健康で、自分のやりたいことがあるといった様々なことがトータルで満たされることにより、健康であり、幸せであるのではないか。幅広い議論を行い、10年、50年、200年後を見通した計画の策定を行う必要があるのではないか。

【委員】

計画策定後、中間評価等を行うのか。計画策定が目的となることがないように、計画に盛り込む施策については、どこが中心となってやっていくかということも検討し、踏まえる形で計画に位置づけを行う必要があるのではないか。行政が「連携」して取り組むとの記載があるが、これは、大学、企業、地域の団体との連携といった観点も含まれるのか。

【事務局】

中間評価等どのように計画の評価を行うかも含め、当委員会で御議論いただきたいが、一定の目標を定めPDCAサイクルに沿って計画を推進していく必要があると考えている。基本計画のため目指すべき方向性等も書くが、御指摘の部分も含めて事業の内容を考えていく。

【委員】

草津市では、計画策定された後の推進に向けた取組が弱い傾向にあると思う。本計画についても策定後の機運の醸成に力を入れて取り組んで欲しい。

【委員長】

当委員会は計画をつくる委員会ではなく推進する委員会なので、具体的な取り組みが推進されているのかを、皆さんとこれから見ていきたい。

【委員】

健康に関心がない人や家から出てこられない人へのアプローチも検討すべき。健康な人だけがどんどん健康になり、出てこられない人はそのままでは、極端な状況になっていくのではないか。また、草津川跡地が整備される中で、公園等もできるかと思うが、駅前からは少し距離があり、駅前にも公園の整備を検討して欲しい。

【事務局】

イベントがあってもそこに出て来られない方に対してのアプローチは大きな課題であり、御意見をいただきながら考えていきたい。子どもの遊び場については、一定整備は進めていると承知しているが、御意見をいただきながら考えていきたい。

【委員】

現在、家から出てこられない高齢者へのアプローチに取り組んでいるが非常に難しい。老人クラブの状況をみると、歌や食（お茶やお弁当）に関わるイベントでは参加者が多いようであるが、運動に関するイベントとなると、体力に自信がない、転倒に不安があるという方が多く、ハードルが高くなっているものとする。

例えば、草津市の地場野菜を使ったレシピを紹介する等、こういったイベントであれば、少しでも顔を出してもらえるか検討する必要があるのではないか。

【委員長】

草津市に行くと健康な食べ物が食べられるといった環境整備を行うため、外食や市

販のお弁当の栄養バランスの検討や、カロリー表示の推進といった取組を進めてはどうか。草津市において、飲食店の禁煙や分煙化を進め、たばこの煙を吸わせない環境整備を進めてはどうか。

【委員】

介護サービスを使うことにより、介護サービスを利用している人を地域から引き離してしまっている現状があるのではないかと思料しており、特に要介護者になったら、地域の参加者でなくなってしまう現状があるものと考えている。

業界では、介護予防という言葉はポジティブな言葉として考えていたが、地域の方の中には、介護予防という言葉を聞いただけで、嫌悪感を持つ人もいる。介護サービスを利用したくないと考えていても、利用を始めると、介護認定を手放したくないという人が多いという現状もある。

【委員】

スポーツ少年団に関わっているが、子どもには運動が好きになって欲しいという願いをもっている。親子で、三世代で運動あそびができるようになれば良いと思う。

2) 「キックオフシンポジウム」「健幸都市宣言」について

【事務局】

<資料2に基づき説明>

【委員】

健康推進員は、地域に密着した地道な活動を行っており、滋賀県では活動の5本柱、栄養・運動・休養・健診・生きがいというものがある。宣言に健診という言葉も入れてほしい。

【委員】

草津市は近畿一の施設野菜団地を有しており、十分に草津市の食を支えられる、量も質も100%支えられるものを備えているところ。草津市はいい環境にあるので、都市宣言にも盛り込むことにより、草津市を「売り込んでいく」ことも必要ではないか。

【委員】

老人クラブでは、未加入者も含めた歌の会や、老人クラブという言葉が嫌いな人でも親しみやすい「きりりクラブ」という名称で65歳以上を対象に行事を実施。その中で、くさつ健・交クラブが進めているノルディックウォークの指導を受け、素晴らしさを実感している。アンケートをするのであれば、1日10分でも20分でも頑張った人とそうでない人の差を出すとか。幸せも健康も人それぞれ感じ方が違う。できないことよりできることに早くとりかかっていたきたい。

【委員】

保育園で保育の仕事をしているが、大人の歩く機会が増えていけば、子どもも歩くようになっていくのではないかと。子ども、親子、高齢者それぞれの立場にあわせた、きめ細やかな目標設定等を行うこと等により、幅広い取組が可能となるような計画とすることが必要ではないか。

【委員】

運動するために出てきましょうという呼びかけだけでは、興味のない人には参加し

てもらえないので、目的を違うところにおくことにより、健康に興味のない人に対するアプローチを検討する必要があるのではないかと。

健康都市に関する取組について、目に留まる機会が増えることにより、注目を集め、皆で、同じ方向に進んでいくことができるのではないかと。若者が興味本位で参加できるようにすることで、コミュニティが広がっていくのではないかと。

【委員】

働いていると、平日の日中はイベントへの参加が難しい等時間の制約がある。働き盛りの世代は、いまは健康でも予備群であるという方もいるので、こういった世代も参加しやすいものを考える必要があるのではないかと。

【委員】

いかに経済を発展させ、地域の賑わいをつくっていくのか、特に中心市街地の活性化をどう図るかという観点で、商工会議所としても取組が進められるのではないかと。

【委員】

地産地消という話がでたときに、草津での特産品、草津ブランドがある。市民が知らないという。健康ポイントも知らない人が多いと思う。市もしっかり頑張っているということも広報できたらいいと思う。

【委員長】

都市宣言については、大きな反対意見はなかったので、この方向で進める。

4. 閉会

【事務局】

<次回日程について説明>

【委員長】

今日は皆様、活発なご審議をありがとうございました。